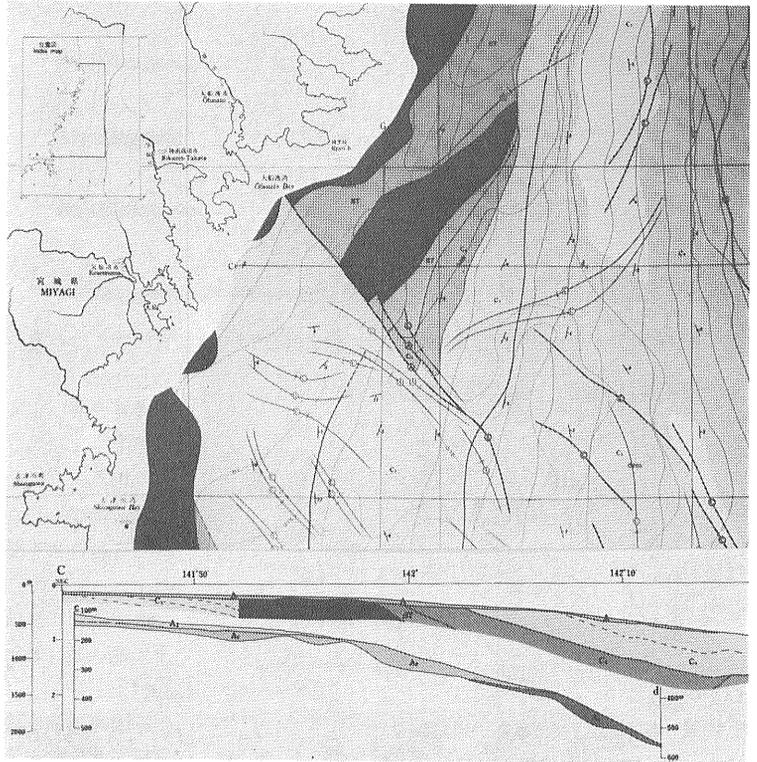


# 20万分の1 海洋地質図の新刊 釜石沖海底地質図（海洋地質図22）



編集 岡村行信・棚橋 学  
 発行 工業技術院地質調査所  
 取扱先 東京地学協会 (03)261-0809  
 262-1401  
 そのほか全国主要書店  
 価格 1,710円

本地質図とすでに発行されている八戸沖海底地質図（玉木 1978）とをあわせて三陸海岸沖合の大陸棚 上部大陸斜面の地質図が完成したことになる。この海域では 東へゆるやかに傾斜する白亜紀～第四紀の地層が 古生代～白亜紀前期の北上 中生界に相当する基盤岩類を不整合に覆っている。白亜紀以降の地層は大きく4つの層群 ①透明基盤（白亜紀） ②C層群（漸新世?～中新世中期） ③B層群（中新世後期?～第四紀） ④A層群（鮮新世～第四紀）に区分でき それぞれ顕著な不整合関係で接する。隣接陸域である北上山地は中生界がほとんどを占め 新第三紀以降の地史について不明な点が多かったが 本地質図はそれらを解明するための有効な基礎資料となるだろう。

海底は一般に堆積場であるため その大部分を第四紀の堆積物で覆われており その分布を陸上地質図と同様の方法で忠実に表現するとほぼ全域が一色で塗色されてしまう場合がある。従来の海洋地質図は 音波探査装置の分解能（50～100m）以下の厚さの表層堆積物は省略するなどをして できるだけ下位の地層を表現していたが 音波探査装置の改良による分解能の向上 地質図の縮尺の拡大に伴い 従来の方法では適正な表現ができなくなってきた。本地質図ではA層群・B層群といっ

た新しい堆積物は層厚線だけを示し 両層群基底の不整合面上でのC層群以下の地層の分布・構造を示した。A・B両層群は 断層・褶曲などの構造的な変形はほとんど受けずにC層群以下の地層を覆っているため 等層厚線のみ表現したわけであるが 最大で400mもの厚さの地層を塗色していない地質図は誤解を生ずるかもしれない。そのかわり実際には海底に露出していない地層の分布・構造がはっきり表現されている。さらに断層・褶曲構造がどの層準にまで変形を及ぼしているかも記号によって示した。埋没された地層・地質構造が表現できるのは 音波探査によって地質断面図的なデータが容易に得られる海洋地質調査の強味である。

等層厚線のみを示したA層群は 前置層状の地層が3組とそれを覆う堆積物が重なり合って構成されている。そういった内部構造をわかりやすくするため 特にA層群のみを垂直方向に拡大した断面図を示した。

このように本地質図では音波探査で得られた情報をできるだけ多く表現するため 従来の地質図にない工夫をこらしている。そのため逆に誤解されやすい面があるかもしれない。今後 さらにわかりやすく情報量豊かな海洋地質図の発行が望まれる。